館内のご案内

4F 展望室

360°の見晴らしの良いパノラマビュー

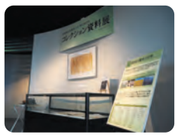
3F 情報ライブラリー

大河津分水や川にまつわる約5000冊の蔵書

しなのがわクイズ 1F展示

10問全問正解で押されるスタンプを集めると表彰するよ！

特別展とコレクション資料展 2F展示



100年前の大河津分水工事で使われた道具や大河津分水で見られる魚たちを水槽で紹介したりと、大河津分水のいろんな姿を知ることができるのじゃよ！

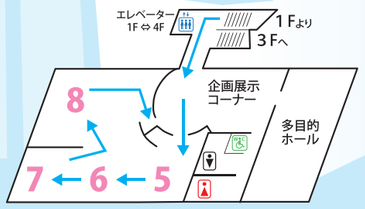
堰カードをゲット

1F受付

全国で配布されている堰カード。信濃川大河津資料館でもゲットできます。1F受付にお越しください！

2F 川の技術と技術者

大河津分水工事の技術と土木技術者の情熱



6 鍋トロ

およそ100年前の工事で実際に使われていた鍋トロ。触れることもできます。

8 大河津分水のしくみ

大河津分水の堰操作の方法をクイズ形式で学ぶことができます。ぜひチャレンジしてみてください。

5 工事年表

大河津分水の工事は簡単ではなかった…。そのことを実感できる年表です。

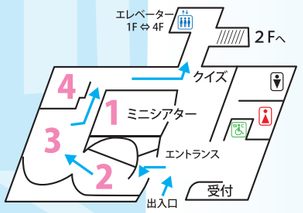
7 宮本武之輔

日本を代表する土木技術者である青山士と宮本武之輔。2人の功績と人柄を実物資料を交えて紹介します。

1Fから順番に見ていくとわかりやすいのだ。

1F 大河津分水の歴史と恩恵

信濃川の水害と大河津分水ができるまで



1 ミニシアター

大河津分水の概要を約10分にまとめた映像で紹介。そのほかにも、短編・長編を合わせて30本の映像を選んでご覧いただけます。

2 深田模型

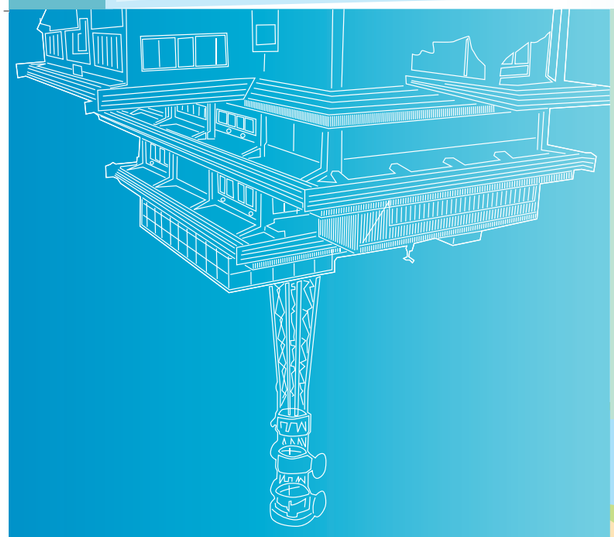
かつては腰まで水につかって米づくりを行っていました。

3 横田切れ

大水害「横田切れ」はどのようにして発生したのか。当時の写真や絵、紙芝居などを通じて体感できます。

4 洪水氾濫シミュレーション

「もし大河津分水がなかったら？！」越後平野の浸水状況をCGで再現。防災にも役立ちます。



信濃川 大河津 資料館

Shinano River Ohkouzu Museum

〒959-0124　新潟県燕市五千石（無番地）
TEL 0256-97-2195　FAX 0256-97-2196
E-mail：ohkouzu@hrr.mlit.go.jp
http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/

ご利用案内

- 時　間 9:00～16:00
- 休館日 毎週月曜日
  12/29～1/3
  （月曜日が休日の場合は翌日以降）
- 入館料 無料

お問い合わせ

自然探検ルート 60分

魚道観察室や体験水路など生き物観察や草花探しにピッタリです。

歴史探訪ルート 60分

石碑や文化財を巡るルート。見識を深めたい方にお勧めです。

大河津分水のあゆみ

幾度となく繰り返された請願活動。ついに工事が始まり大河津分水が通水した後の自在堰陥没。多くの困難を乗り越えて大河津分水は、その後も何度も補修工事や改築増築工事をへて、現在の姿になっています。

大河津分水に関わる主なできごと

1730頃 享保年間	本間屋数右衛門が初めて大河津分水の建設を江戸幕府に請願する。	繰り返された請願活動 水害常襲地帯の越後平野
寛政年間	この頃、良寛が水害を嘆いた詩「寛政甲子夏」を遺す。	
1868 明治元	水害により越後平野全域に被害。分水工事を求める請願活動が活発化。	
1870 明治3	7月7日、大河津分水工事（第1期）起工式。分水路の開削を開始。	
1875 明治8	政府は外国人技術者の意見をもとに大河津分水工事（第1期）を中止。	
1881 明治14	田沢実入、高橋健三らが信濃川治水会社を設立し大河津分水実現運動を展開。	
1896 明治29	7月22日、記録的な大水害「横田切れ」が発生し越後平野は壊滅。	
1907 明治40	政府は大河津分水工事（第2期）を含む信濃川改良工事を決定。同年、工事着手。	英知を結集した第二期工事
1909 明治42	7月5日、寺泊において、信濃川改良工事起工式。本格的な掘削工事を開始。	
1922 大正11	8月25日、大河津分水路に通水。200年にわたる悲願達成。	
1924 大正13	3月23日、信濃川改良工事竣工式。大勢の参列者で大河津分水が賑わう。	
1927 昭和2	6月、自在堰が陥没し信濃川・中ノ口川などが枯渇。12月、信濃川補修工事に着手。	威信を賭けた補修工事
1931 昭和6	6月20日、信濃川補修工事竣功式。記念碑も合わせて建立。	
1972 昭和47	分水路河口の洗堀を防止するために第二床固の副堰堤を建設。	完成後の大河津分水
1978 昭和53	信濃川治水100年事業の一環として、信濃川大河津資料館開館。	
1990 平成2	第二床固バッフルピアの完成。	
1992 平成4	洗堰改築の着工。	
2002 平成14	4月、新洗堰を建設する洗堰改築事業竣工式挙行。信濃川大河津資料館リニューアル。	
2003 平成15	可動堰改築の着工。	
2014 平成26	6月、新可動堰を建設する可動堰改築事業竣工式挙行。	
2018 平成30	3月17日、大河津分水路改修事業起工式挙行。本格的な工事を開始。	

～明治期 水害常襲地帯の越後平野

3年に1度の頻度で水害が発生した越後平野。潟や沼が点在する低湿地帯のため水はけが悪く、浸水が長期化したほか、腰まで水に浸かりながら稲刈りをする泥沼の田んぼ「深田」が各地に広がっていました。

浸水が長びき家に帰ることができず、樹木等に板を縛り付けた仮住まいで生活する人もいました。

深田で使用した“田かんじき”

深田の農作業を再現した模型

横田切れ

明治29(1896)年7月22日に発生した「横田切れ」では越後平野のほぼ全域が約1カ月にわたって浸水し、食料や住居を失い伝染病に苦しむ人々で溢れました。

【数字で見る横田切れの被害】
- 死者43名
- 浸水家屋：60,621棟
- 損壊家屋：10,882棟
- 冠水田畑：58,254ha
- 堤防決壊箇所：874箇所
- 堤防決壊延長：約228km
- 破壊橋梁：1,809箇所
- 被害額：約1,231万円

横田切れの浸水深を表した柱

～明治期 繰り返された請願活動

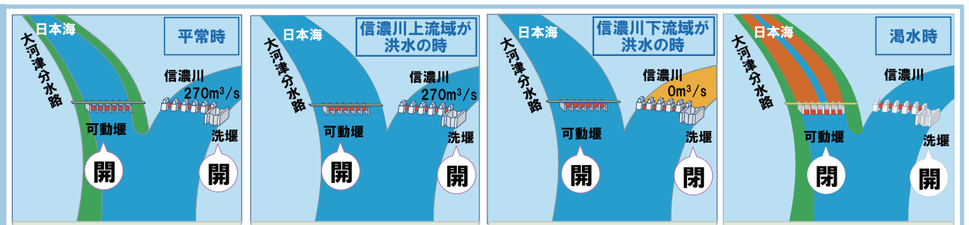
度重なる水害を防ぐために大河津分水の実現を切望した有志たち。資金調達に奔走する者、工事の設計書を描く者、大河津分水の必要性を説いた冊子を作る者。100人を超える人々が新潟で、あるいは東京へ大阪へと出向き請願をくり返しました。

本間屋数右衛門の墓

高橋健三　田沢実入　大竹貫一

歴史がまとめられている、田沢実入著「信濃川改良工事沿革誌」

大河津分水のしくみ



洗堰から下流域へ、毎秒270㎥まで流します。それ以上の水は可動堰から分水路へと流します。

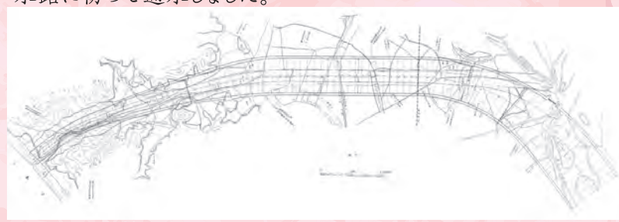
平常時と同じしくみで、洗堰から下流域へ、毎秒270㎥まで流し、それ以上の水は可動堰から分水路へと流します。

洗堰を全閉し、全量を分水路へ流します。

可動堰により、分水路へ流す水量を調節し、下流域へ水を流すようにします。

明治後期～大正期 英知を結集した第2期工事

日本で最初の大型機械を用いた山地掘削、日本初の自在堰の建設など、最新の技術とノウハウを結集し、およそ15年にわたり工事を続け、大正11（1922）年8月25日、大河津分水路に初めて通水しました。



第2期工事計画平面図

エキスカベーター

人力の運搬車“鍋トロ”

通水を喜ぶ人々

水と空気の力を利用し動く自在堰

数字で見る第2期工事
- 掘削距離：約10km
- 掘削土量：約2,880万㎥
- 従事者数：延べ1,000万人
- 事業費用：約2,350万円
- 本格的な工事期間：15年
  着工は1907（明治40）年
  完了は1927（昭和2）年

昭和初期 威信を賭けた補修工事

川底の洗堀によって突如として陥没した自在堰。これに代わる可動堰と、川底の洗堀を防ぐ床留・床固を建設しました。工事は青山士、宮本武之輔が指揮を執りました。

青山士

宮本武之輔

宮本武之輔の日記

当時制作された可動堰の模型

補修工事竣功記念碑

陥没した自在堰

建設中の可動堰

大河津分水の恵み

大河津分水の通水により大水害がなくなった越後平野。泥沼の田んぼは美田に生まれ変わり、新幹線や高速道路などのインフラが整備されました。大河津分水は越後平野発展の礎であり、今日もまた人々の暮らしを支えています。